

5 地域での活動

地域での活動状況を把握するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【地域活動やボランティア活動の現状】

参加している活動は年代によって違いがあり、「町会・自治会の活動」は75歳以上、「子ども会・PTAの活動」は40歳代で多くなっています。一方、6割以上の区民が参加していない状況にあります。特に30代までの若い世代は9割程度が参加していない状況です。参加しない理由としては、「仕事の忙しさ」が最も多いものの、前回と比べると「地域活動に興味がなかったから」と回答した方の割合が増えています。

【今後の地域活動やボランティア活動に向けて】

今後の参加意向については、「興味のある活動があれば参加したい」と回答した方が5割に上ります。興味のある活動で多いのは「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」ですが、年代別・居住地域別に関心のある活動は異なっています。一方、前回調査と比べると「町会・自治会活動」と「防災活動や災害時支援活動」への興味は低下傾向にあります。参加促進のために必要なのは、「参加方法や活動の具体的内容に関する情報提供や紹介」が多くなっています。

【災害発生時の対応について】

災害発生時に、「一人で避難できる」方は約8割です。一方、「一人で避難できない」方は1割、そのうち「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」方は約3%（40名が回答）となっています。

「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」方の内訳を詳しくみると、家族構成別では「単身（ひとり暮らし）」、住居の種類別では「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」の方が多くなっています。年代別でみると高齢者が占める割合が3割と多くなっていますが、「20～29歳」も2割を占めています。また、「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」方の5割は「身近に相談できる人がいない」と答えています。

災害時に支援を必要とする方への支援策としては、「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておく」が7割と最も高くなっています。

災害時にできる手助けや対応については、年代、家族構成、居住地域、住居の種類を問わず「安否確認や避難情報等の声掛け」はできるものの、「避難所生活での身の回りの世話までできる」などの少し踏み込んだ支援をできる人が少ない状況です。災害時に「自分のことで精一杯で、手助けすることが難しい」と回答した方は「20～29歳」や「75歳以上」に比較的多くなっています。

■調査結果から見受けられる課題について

【地域活動やボランティア活動について】

- ・興味関心を持てる地域活動・ボランティア活動の創出
- ・参加の情報や周りからの誘いといった活動のきっかけづくり
- ・今の時代に合った地域活動やボランティア活動の展開（区民が関心を持てる活動を中心に参加者を増やすだけでいいのか。停滞傾向にある町会・自治会活動など地域づくりの面から期待される役割を今後どう考えるか。）

【災害発生時の対応について】

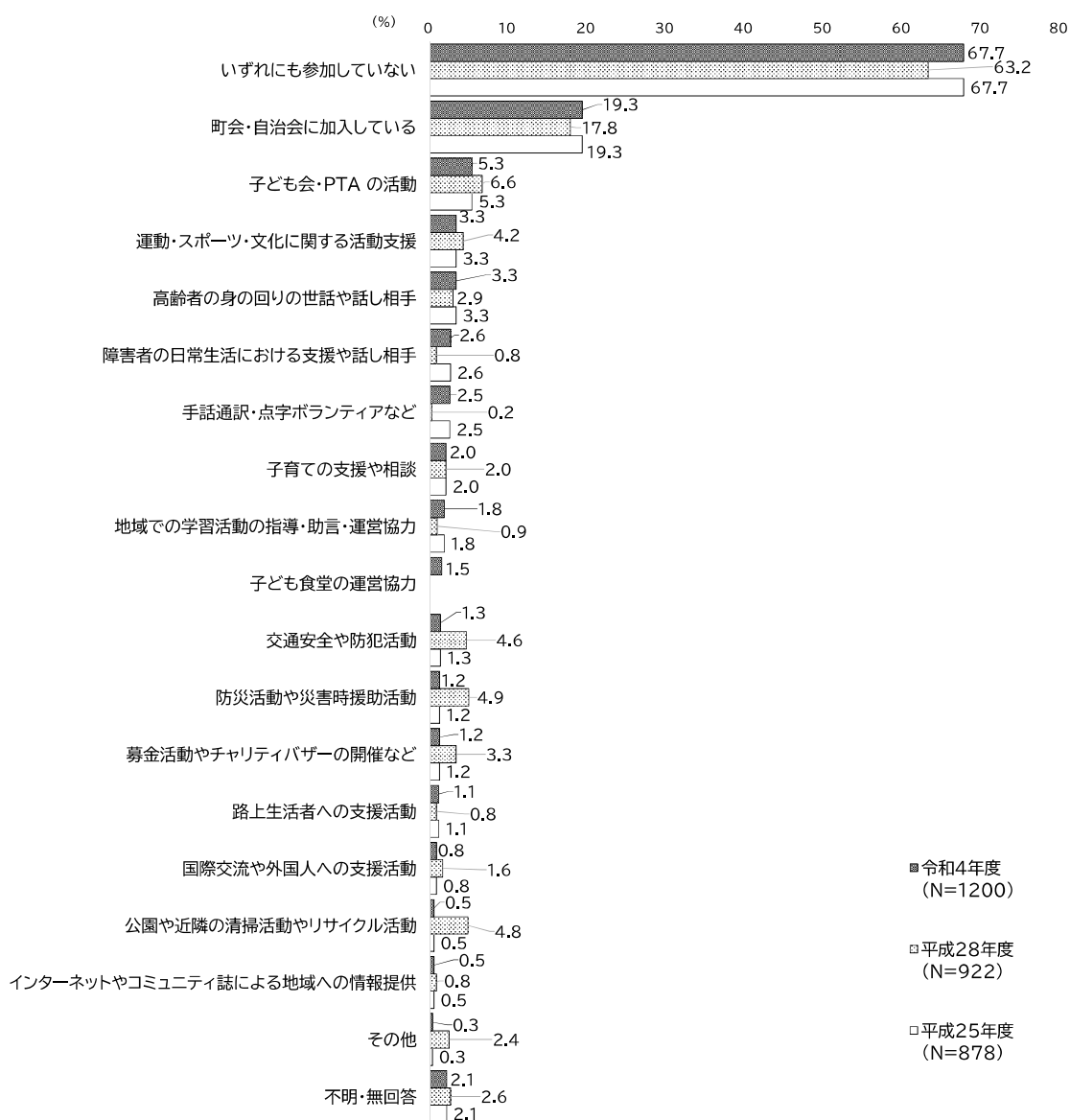
- ・災害時の避難が困難で孤立する可能性がある方への対応（高齢者に加え、単身者や共同住宅住まいの方、20代の若い世代も対象となる）
- ・また、孤立する可能性がある方に対しては、安否確認や避難情報等の声掛け等の意識の高さを今後も継続しつつ、支援を必要とする方の情報を地域で把握したり、支援を必要とする方の世話などができる人材や環境づくりなどを進めたりすることで、いざという時に支え合える関係をつくることが重要

(1) 地域活動への参加経験

問 11 過去1年くらいの間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(〇は1つのみ)

地域活動への参加経験については、「町会・自治会に加入している」(19.3%)が最も多く、次いで「子ども会・PTAの活動」(5.3%)と続いています。一方で、「いずれにも参加していない」は67.7%となっています。

前回と比べると、「いずれにも参加していない」は4.5ポイント増えました。



〔年代別〕

年代別でみると、「町会・自治会に加入している」は「75歳以上」で33.2%であり、年代が上がるにつれて加入している人が多くなっています。「子ども会・PTAの活動」は「40～49歳」で17.7%と多くなっています。一方、「いずれにも参加していない」は、「20歳未満」、「20～29歳」、「30～39歳」で9割程度と多くなっています。

		全 体	Q11 地域活動への参加経験																			
			町会・自治会に加入している	子ども会・PTAの活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話や話し相手	障害者の日常生活における支援や話し相手	手話通訳・点字ボランティアなど	子育ての支援や相談	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	子ども食堂の運営協力	交通安全や防犯活動	防災活動や災害時支援活動	募金活動やチャリティイベントの開催など	路上生活者への支援活動	援活動	国際交流や外国人への支援活動	情報提供	インターネットやコミュニケーションによる地域への情報提供	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	その他	いずれにも参加していない
全体	件数	1200	231	64	39	30	14	6	14	13	6	39	22	24	3	16	9	31	18	812	25	
	割合(%)	100.0	19.3	5.3	3.3	2.5	1.2	0.5	1.2	1.1	0.5	3.3	1.8	2.0	0.3	1.3	0.8	2.6	1.5	67.7	2.1	
Q 3 3 年代	20歳未満	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	
		100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
	20～29歳	110	2	-	2	1	-	1	-	1	1	-	1	-	-	-	1	3	-	99	1	
		100.0	1.8	-	1.8	0.9	-	0.9	-	0.9	0.9	-	0.9	-	-	-	0.9	2.7	-	90.0	0.9	
	30～39歳	177	10	5	3	2	1	1	1	1	-	1	1	1	-	-	1	3	3	151	1	
		100.0	5.6	2.8	1.7	1.1	0.6	0.6	0.6	0.6	-	0.6	0.6	0.6	-	-	0.6	1.7	1.7	85.3	0.6	
	40～49歳	215	37	38	7	5	6	1	4	2	2	6	4	6	-	4	2	5	5	131	2	
		100.0	17.2	17.7	3.3	2.3	2.8	0.5	1.9	0.9	0.9	2.8	1.9	2.8	-	1.9	0.9	2.3	2.3	60.9	0.9	
	50～59歳	202	37	13	8	3	2	2	1	2	-	4	4	6	1	4	1	4	5	137	1	
		100.0	18.3	6.4	4.0	1.5	1.0	1.0	0.5	1.0	-	2.0	2.0	3.0	0.5	2.0	0.5	2.0	2.5	67.8	0.5	
年代	60～64歳	80	19	1	-	1	-	-	6	1	-	-	-	2	1	-	3	-	-	1	52	1
		100.0	23.8	1.3	-	1.3	-	-	7.5	1.3	-	-	-	2.5	1.3	-	3.8	-	-	1.3	65.0	1.3
	65～74歳	195	55	2	6	6	1	-	1	5	2	10	3	5	1	3	-	1	2	121	4	
		100.0	28.2	1.0	3.1	3.1	0.5	-	0.5	2.6	1.0	5.1	1.5	2.6	0.5	1.5	-	0.5	1.0	62.1	2.1	
年代	75歳以上	199	66	3	10	11	4	1	1	1	1	15	7	4	-	4	-	12	2	106	14	
		100.0	33.2	1.5	5.0	5.5	2.0	0.5	0.5	0.5	0.5	7.5	3.5	2.0	-	2.0	-	6.0	1.0	53.3	7.0	

※網掛けは最大値

〔住居の種類別〕

住居の種類別でみると、「町会・自治会に加入している」は、「一戸建て（持ち家）」（35.7%）が最も多くなっています。一方、「いずれにも参加していない」は「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」（82.4%）が最も多くなっています（その他を除く）。

		Q11 地域活動への参加経験																				
		全 体	町会・自治会に加入している	子ども会・PTAの活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話や話し相手	障害者の日常生活における支援や話し相手	手話通訳・点字ボランティアなど	子育ての支援や相談	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	子ども食堂の運営協力	交通安全や防犯活動	防災活動や災害時支援活動	募金活動やチャリティイベントの開催など	路上生活者への支援活動	活動	国際交流や外国人への支援提供	インターネットやコミュニケーションによる地域への情報提供	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	その他	いずれにも参加していない	不明・無回答
全体	件数	1200	231	64	39	30	14	6	14	13	6	39	22	24	3	16	9	31	18	812	25	
	割合(%)	100.0	19.3	5.3	3.3	2.5	1.2	0.5	1.2	1.1	0.5	3.3	1.8	2.0	0.3	1.3	0.8	2.6	1.5	67.7	2.1	
Q 3 7 住居の種類	一戸建て(持ち家)	440	157	28	15	18	6	4	8	8	3	27	11	10	2	4	3	15	10	222	9	
		100.0	35.7	6.4	3.4	4.1	1.4	0.9	1.8	1.8	0.7	6.1	2.5	2.3	0.5	0.9	0.7	3.4	2.3	50.5	2.0	
	一戸建て(賃貸)	36	4	2	-	1	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	1	27	-	
		100.0	11.1	5.6	-	2.8	-	-	2.8	-	-	2.8	-	2.8	-	-	-	2.8	2.8	75.0	-	
	共同住宅(分譲マンション等)	258	37	18	6	3	2	1	2	1	1	3	5	6	-	4	1	5	2	190	4	
		100.0	14.3	7.0	2.3	1.2	0.8	0.4	0.8	0.4	0.4	1.2	1.9	2.3	-	1.6	0.4	1.9	0.8	73.6	1.6	
	共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)	425	23	11	12	6	5	1	2	3	2	3	4	4	1	6	4	7	5	350	9	
	100.0	5.4	2.6	2.8	1.4	1.2	0.2	0.5	0.7	0.5	0.7	0.9	0.9	0.2	1.4	0.9	1.6	1.2	82.4	2.1		
	その他	17	5	2	2	1	1	-	1	1	-	2	-	2	-	1	-	1	-	9	1	
		100.0	29.4	11.8	11.8	5.9	5.9	-	5.9	5.9	-	11.8	-	11.8	-	5.9	-	5.9	-	52.9	5.9	

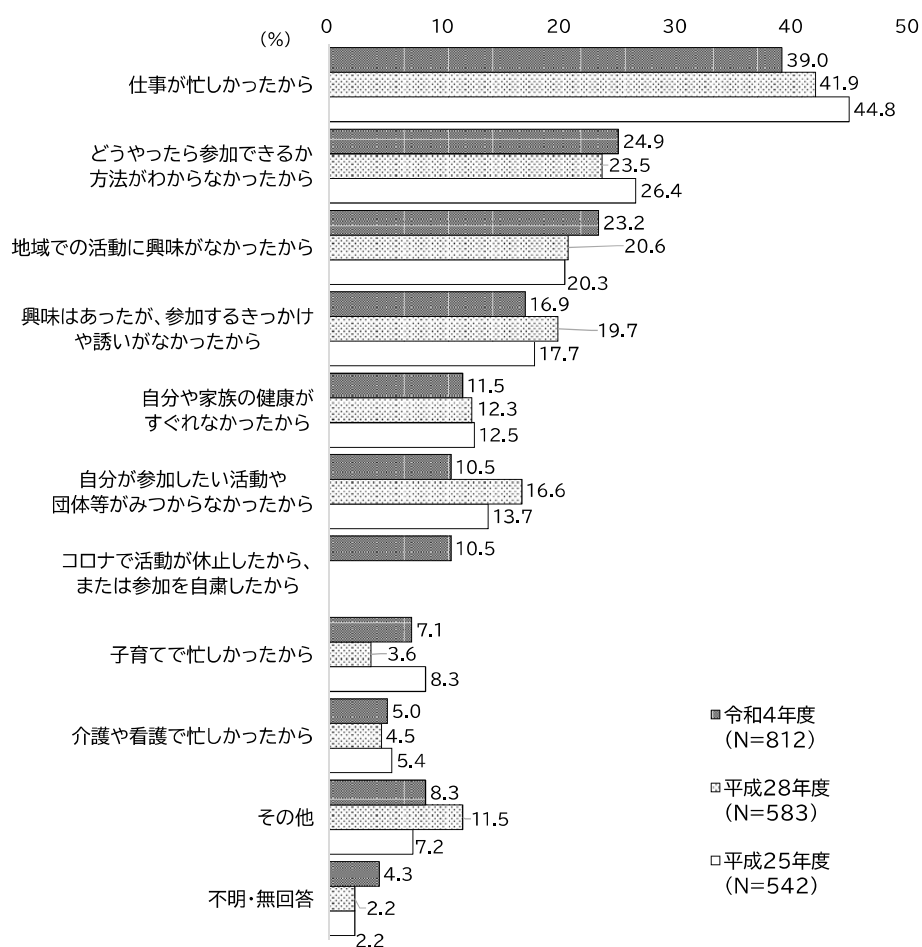
※網掛けは最大値

(2) 地域活動に参加しない理由

問 11- 1 参加しなかった主な理由は、次のうちどれにあてはまりますか。（〇はいくつでも）

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった理由としては、「仕事が忙しかったから」（39.0%）が最も多く、次いで、「どうやったら参加できるか方法がわからなかったから」（24.9%）、「地域での活動に興味がなかったから」（23.2%）と続いています。

「仕事が忙しかったから」と回答した方は、前回、前々回調査と比較すると減少傾向にあり、「地域活動に興味がなかったから」と回答した方の割合が微増傾向にあります。また、今年度新たに追加した「コロナで活動が休止したから、または参加を自粛したから」は10.5%の方が回答しています。

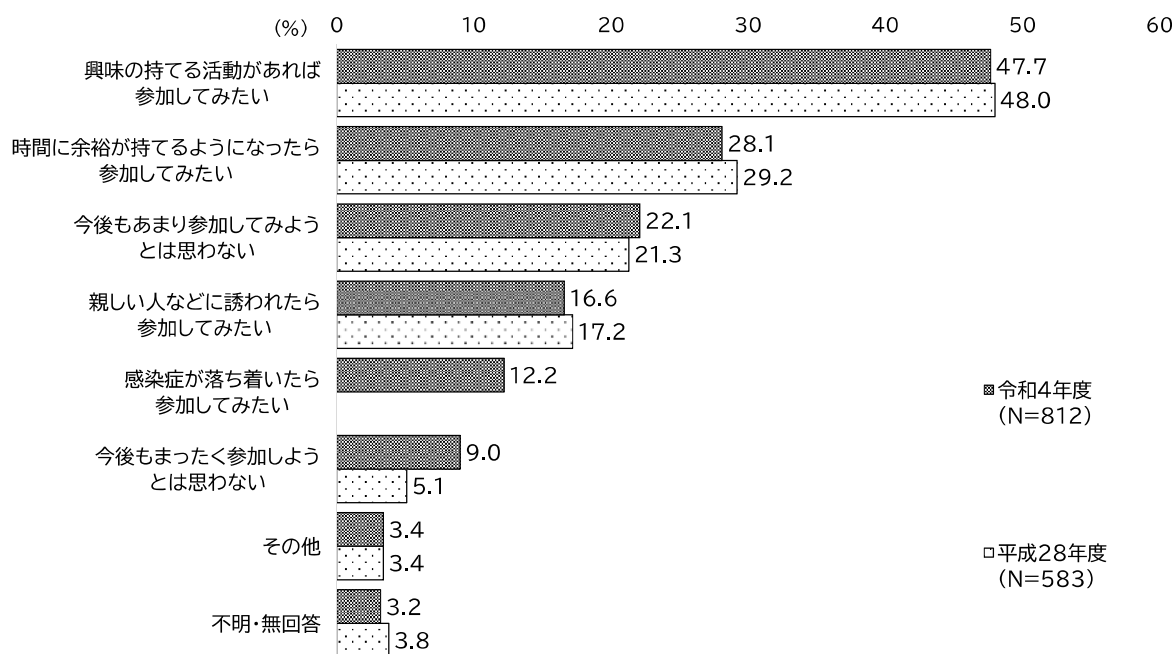


(3) 地域活動への参加意向

問 11- 2 今後参加したいと思いますか。(○はいくつでも)

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった方に対して、今後の参加意向を尋ねたところ、「興味の手てる活動があれば参加してみたい」(47.7%)が最も多く、次いで「時間に余裕が手てるようになったら参加してみたい」(28.1%)と続いています。一方で、「今後もあまり参加してみようとは思わない」は22.1%となっています。

前回調査との比較では、大きな差は見られませんでした。

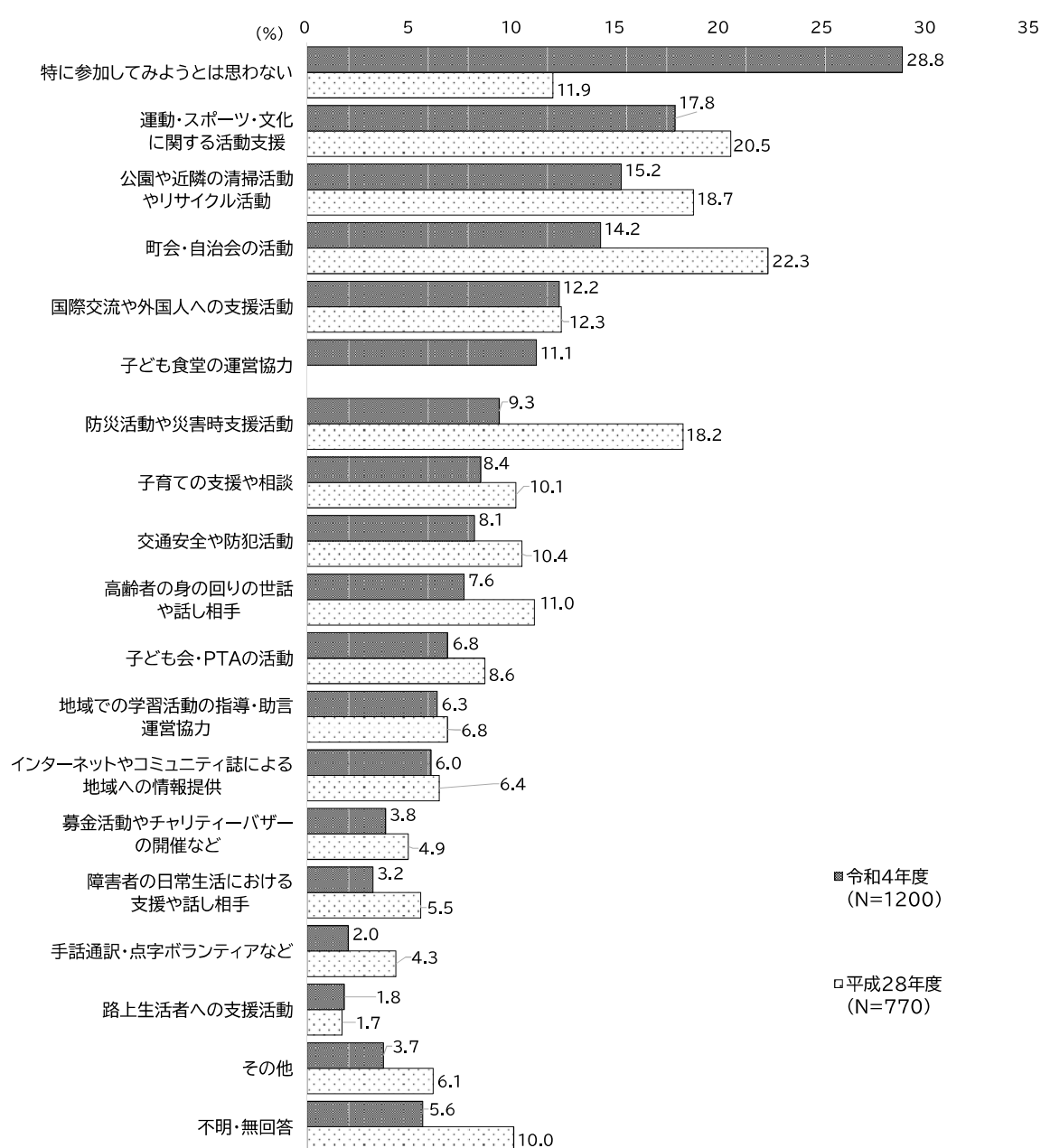


(4) 参加したい地域活動

問 12 今後どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。
(〇はいくつでも)

今後、参加したい地域活動・ボランティア活動について、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」(17.8%)が最も多く、次いで「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」(15.2%)、「町会・自治会の活動」(14.2%)と続いています。

前回調査と比較すると、今回の調査では、「町会・自治会の活動」が8.1ポイント、「防災活動や災害時支援活動」が8.9ポイント減っています。一方、「特に参加してみようと思わない」が16.9ポイント増えています。



〔年代別〕（各年代の上位3位）

年代別でみると、年代で最も多い活動内容が異なっています。具体的には、「30～39歳」と「75歳以上」以外の世代では、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」が最も多くなっています。一方、「30～39歳」では「国際交流や外国人への支援活動」、「75歳以上」では「町会・自治会の活動」がそれぞれ最も多くなっています。

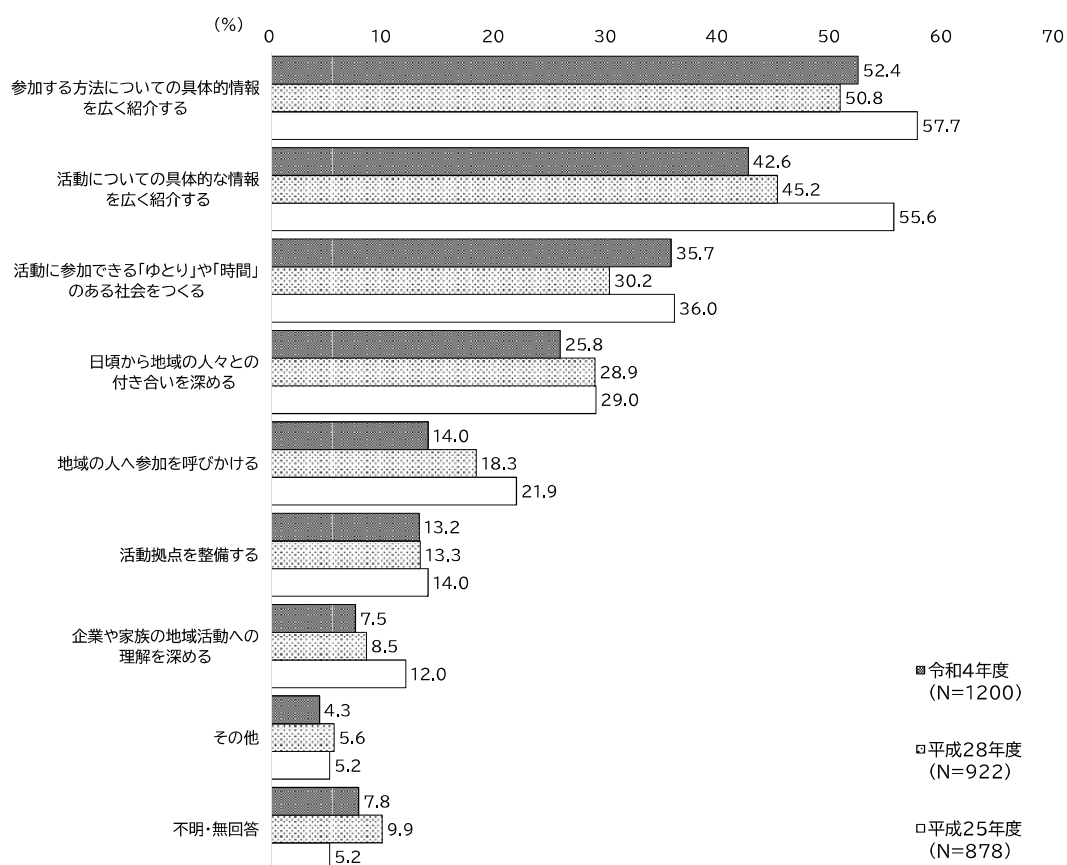
	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
1位	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	国際交流や外国人への支援活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	町会・自治会の活動
	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動						町会・自治会の活動	
	30.0	22.7	24.3	20.0	18.3	18.8	16.9	16.6
2位	-	国際交流や外国人への支援活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	子ども会・PTAの活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	町会・自治会の活動	-	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動
		公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動						
	-	17.3	20.3	19.5	15.3	17.5	-	10.6
3位	国際交流や外国人への支援活動	-	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	子ども食堂の運営協力	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援
	子ども食堂の運営協力							交通安全や防犯活動
	20.0	-	15.8	17.7	14.4	16.3	13.8	9.5

〔単位：％〕

(5) 地域活動への参加に必要なこと

問 13 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするために必要だと思うことは、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」(52.4%) が最も多く、次いで「活動についての具体的な情報を広く紹介する」(42.6%)、「活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる」(35.7%) と続いています。

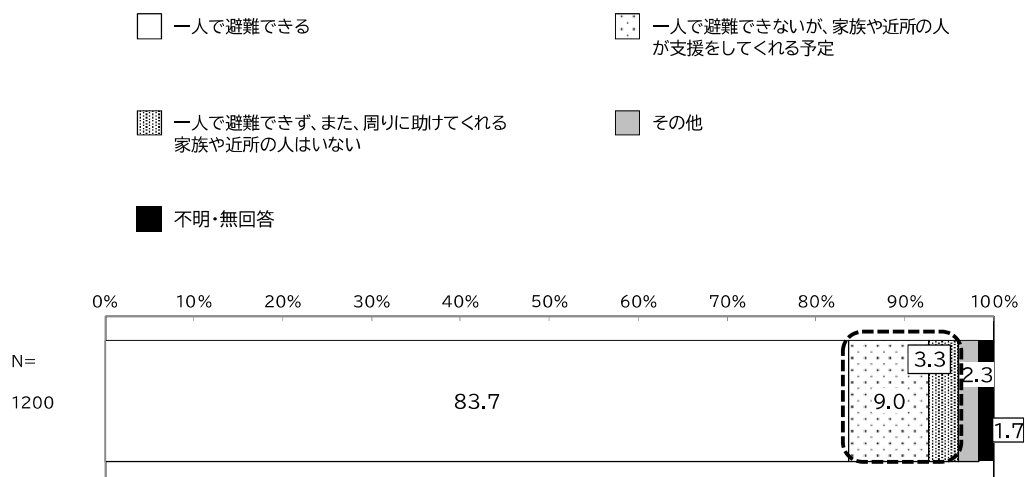


(6) 災害発生時の避難

問 14 あなたは、災害が発生した時に一人で避難できますか。(○は1つのみ)

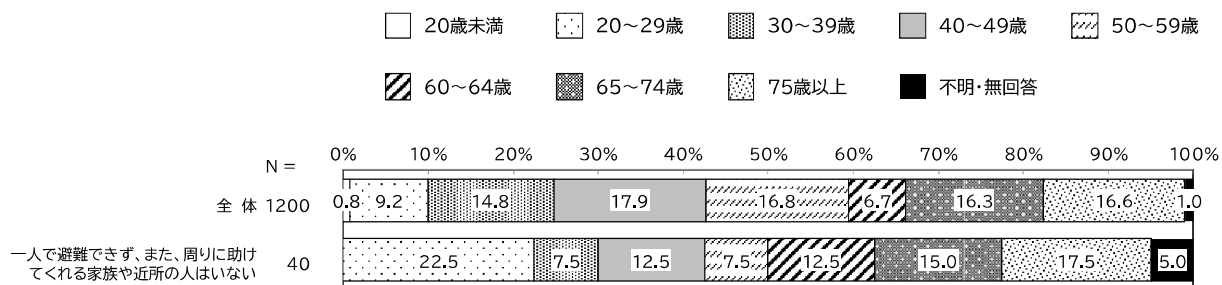
災害発生時の避難について、「一人で避難できる」方は83.7%です。

一方、「一人で避難できない」と回答した方は12.3%です。そのうち、「家族や近所の人が支援をしてくれる予定」と回答した方は9.0%、「周りに助けてくれる人もいない」と回答した方は、3.3%となっています。



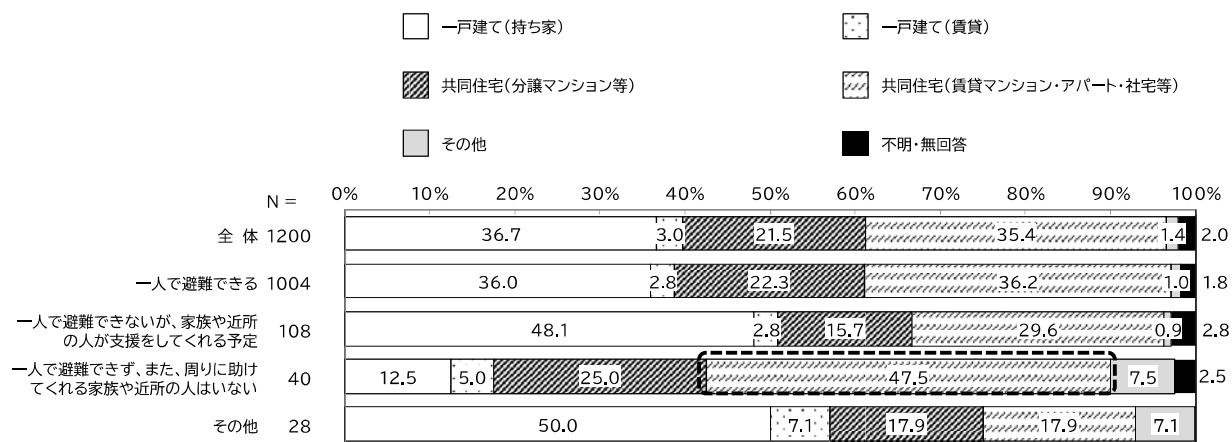
[年代別]

「一人で避難できず、また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない」について年代別にみると、「20～29歳」(22.5%)が最も多く、次いで「75歳以上」(17.5%)、「65～74歳」(15.0%)と続いています。



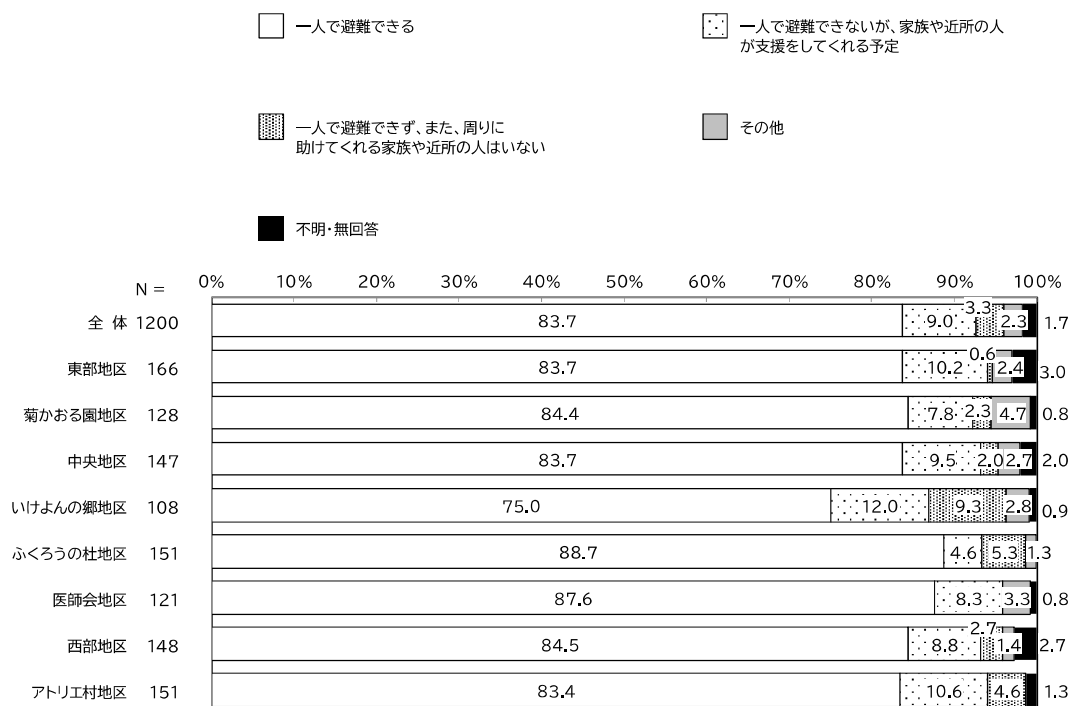
[住居の種類別]

住居の種類別では、「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」（47.5%）が最も多くなっています。



[居住地域別]

居住地域別でみると、「いけよんの郷地区」は、「一人で避難できる」と回答した方の割合が75.0%と他地区に比べ8.4%以上低く、「一人で避難できず、また、周りに助けしてくれる家族や近所の人はいない」（9.3%）が最も多くなっています。



[家族構成別]

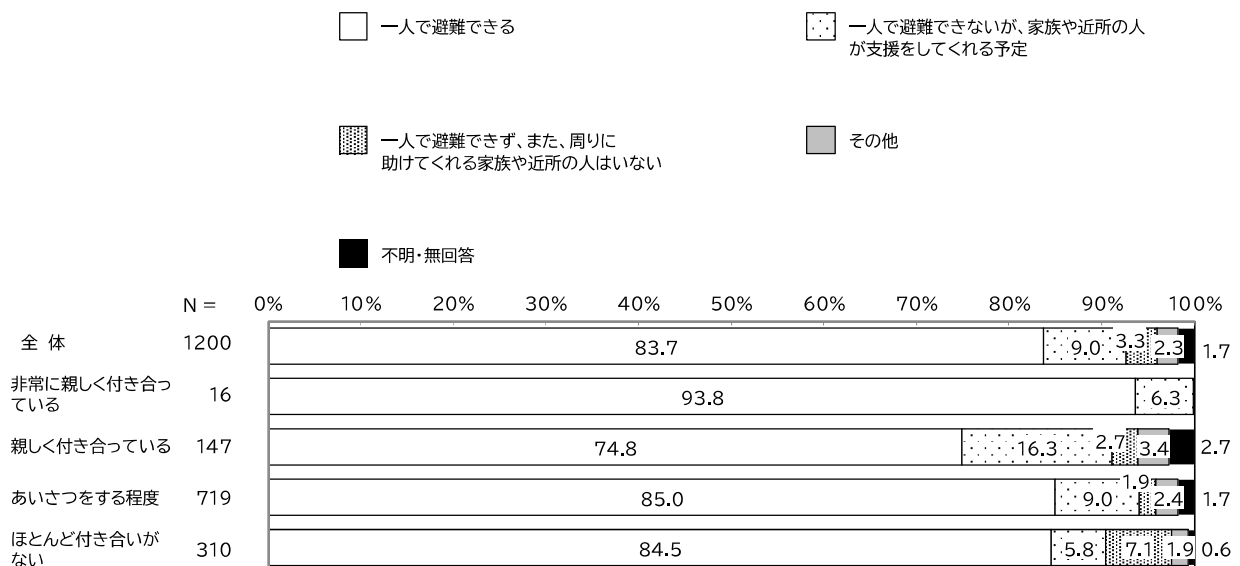
「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」と回答した方の家族構成をみると、「単身（ひとり暮らし）」（62.5%）が最も多くなっています。

		Q34 家族構成									
		全体	単身（ひとり暮らし）	夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	二世世代家族（親と子）	三世世代家族（親と子と孫）	兄弟姉妹のみ	その他	不明・無回答
全体	件数	1200	294	176	110	27	469	46	21	29	28
	割合(%)	100.0	24.5	14.7	9.2	2.3	39.1	3.8	1.8	2.4	2.3
Q 生1 時4 の 避 難 害 発	一人で避難できず、また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない	40	25	3	2	1	6	1	-	1	1
		100.0	62.5	7.5	5.0	2.5	15.0	2.5	-	2.5	2.5

※網掛けは最大値

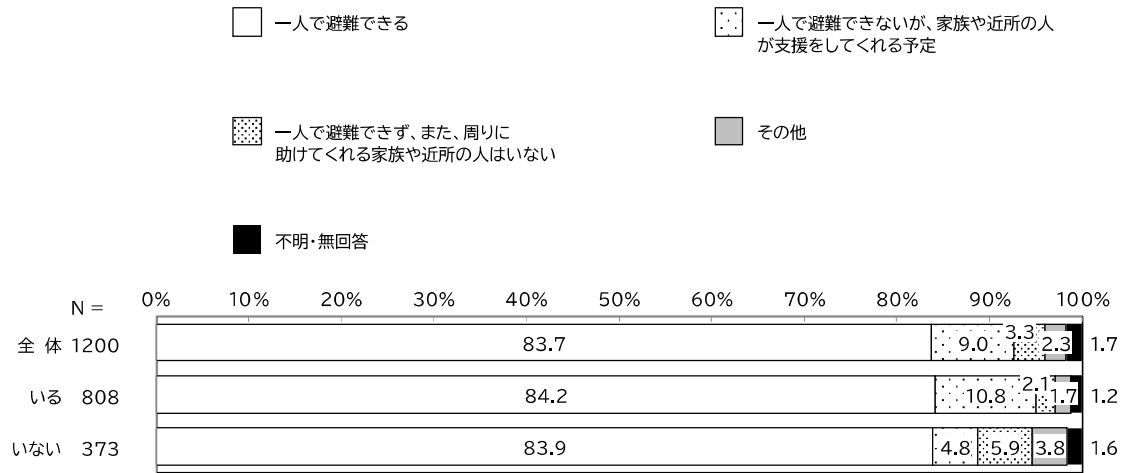
[近所付き合いの程度別]

「一人で避難できず、また、周りに助けてくれる家族や近所の人はいない」と回答した方は、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」と回答した方の7.1%を占めています。



[相談できる人の有無別]

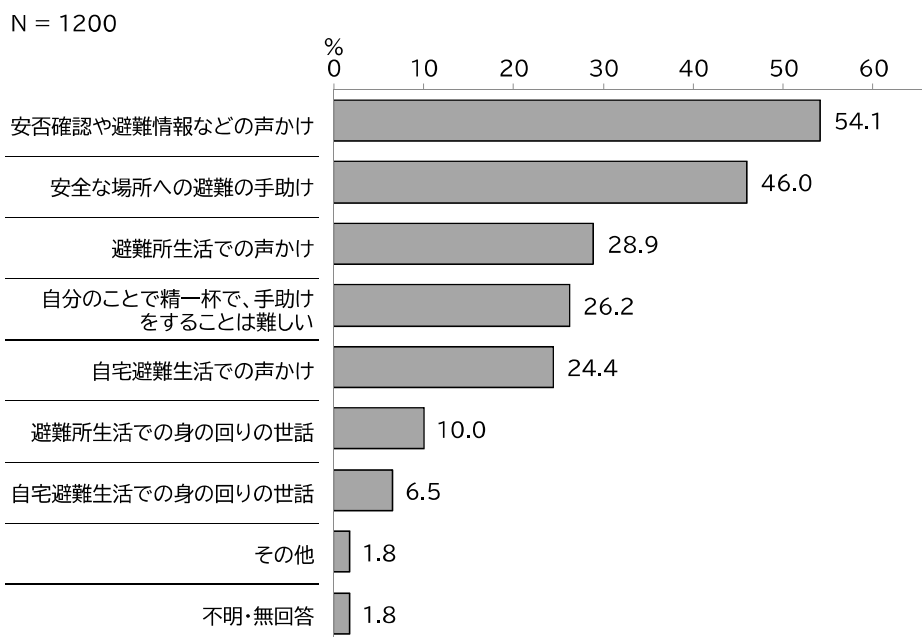
相談できる人の有無別でみると、身近に相談できる方が「いない」と回答した方のうち5.9%は、「一人で避難できず、また、周りに助けしてくれる家族や近所の人はいない」と回答しています。



(7) 災害時の手助けや対応

問 15 あなたは、災害時において、ご近所にお住まいの支援を必要とする人に対して、どのような手助けや対応ができると思いますか。（〇はいくつでも）

災害時に支援を必要とする人に対する手助けや対応としては、「安否確認や避難情報などの声かけ」（54.1%）が最も多く、次いで「安全な場所への避難の手助け」（46.0%）、「避難所生活での声かけ」（28.9%）と続いています。



[年代別]

年代別でみると、年代で最も多い活動内容が異なっています。具体的には、「20～29 歳」および「75 歳以上」以外の世代では、「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「20 歳未満」と「20～29 歳」では「安全な場所への避難の手助け」が最も多くなっています。

「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」は「75 歳以上」（55.3%）が最も多く、「20～29 歳」（29.1%）、「65～74 歳」（28.2%）が続きます。

		全 体	Q15 災害時の手助けや対応								
			声か け 安 否 確 認 や 避 難 情 報 な ど の	け 安 全 な 場 所 へ の 避 難 の 手 助	避 難 所 生 活 で の 声 か け	世 話 避 難 所 生 活 で の 身 の 回 り の	自 宅 避 難 生 活 で の 声 か け	の 自 宅 避 難 生 活 で の 身 の 回 り	助 け を す る こ と は 精 一 杯 で 、 手	自 分 の こ と で 精 一 杯 で 、 手	そ の 他
全体	件数	1200	649	552	347	120	293	78	314	21	21
	割合(%)	100.0	54.1	46.0	28.9	10.0	24.4	6.5	26.2	1.8	1.8
Q 3 3 年 代	20歳未満	10	6	6	2	1	1	1	1	-	-
		100.0	60.0	60.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-	-
	20～29歳	110	45	50	27	11	19	7	32	-	-
		100.0	40.9	45.5	24.5	10.0	17.3	6.4	29.1	-	-
	30～39歳	177	112	95	71	25	50	17	34	3	3
		100.0	63.3	53.7	40.1	14.1	28.2	9.6	19.2	1.7	1.7
	40～49歳	215	138	126	74	28	60	19	33	4	1
		100.0	64.2	58.6	34.4	13.0	27.9	8.8	15.3	1.9	0.5
	50～59歳	202	123	112	69	31	55	15	31	4	4
		100.0	60.9	55.4	34.2	15.3	27.2	7.4	15.3	2.0	2.0
60～64歳	80	47	35	26	3	23	4	14	1	2	
	100.0	58.8	43.8	32.5	3.8	28.8	5.0	17.5	1.3	2.5	
	65～74歳	195	110	83	53	18	51	10	55	3	4
	100.0	56.4	42.6	27.2	9.2	26.2	5.1	28.2	1.5	2.1	
75歳以上	199	62	42	24	3	30	4	110	6	7	
	100.0	31.2	21.1	12.1	1.5	15.1	2.0	55.3	3.0	3.5	

※網掛けは最大値

〔家族構成別〕

家族構成別でみると、「その他」を除くすべての構成では「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」は、「夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）」（40.9%）が最も多くなっています。

		全 体	Q15 災害時の手助けや対応								
			声かけ 安否確認 や避難情報 などの	安全な場所 への避難の 手助け	避難所生活 での声かけ	避難所生活 での身の回 りの	自宅避難 生活での声 かけ	自宅避難 生活での身 の回り	自分のこと で精一杯で、 手助けをする ことは難し い、手	その他	不明・無 回答
全体	件数	1200	649	552	347	120	293	78	314	21	21
	割合(%)	100.0	54.1	46.0	28.9	10.0	24.4	6.5	26.2	1.8	1.8
Q 3 4 家 族 構 成	単身(ひとり暮らし)	294	134	127	62	25	61	22	101	7	5
		100.0	45.6	43.2	21.1	8.5	20.7	7.5	34.4	2.4	1.7
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	176	98	87	62	24	47	14	27	2	4
		100.0	55.7	49.4	35.2	13.6	26.7	8.0	15.3	1.1	2.3
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	110	51	37	25	5	23	-	45	-	4
		100.0	46.4	33.6	22.7	4.5	20.9	-	40.9	-	3.6
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	27	18	12	7	5	6	2	4	1	2
		100.0	66.7	44.4	25.9	18.5	22.2	7.4	14.8	3.7	7.4
	二世世代家族(親と子)	469	285	238	151	51	124	32	103	8	3
		100.0	60.8	50.7	32.2	10.9	26.4	6.8	22.0	1.7	0.6
	三世世代家族(親と子と孫)	46	26	19	18	3	14	3	12	-	-
		100.0	56.5	41.3	39.1	6.5	30.4	6.5	26.1	-	-
兄弟姉妹のみ	21	12	9	9	2	5	2	6	1	-	
	100.0	57.1	42.9	42.9	9.5	23.8	9.5	28.6	4.8	-	
その他	29	13	14	7	3	5	-	8	2	2	
	100.0	44.8	48.3	24.1	10.3	17.2	-	27.6	6.9	6.9	

※網掛けは最大値

〔居住地域別〕

居住地域別でみると、すべての地域で「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」は、「医師会地区」のみ 20%を下回っていることから、他の地域より手助けができる人が多いとみられます。

		全 体	Q15 災害時の手助けや対応								
			声かけ 安否確認や避難情報などの	安全な場所への避難の手助	避難所生活での声かけ	避難所生活での身の回りの世話	自宅避難生活での声かけ	自宅避難生活での身の回りの世話	自分のことでは精一杯で、手助けをすることは難しい	その他	不明・無回答
全体	件数	1200	649	552	347	120	293	78	314	21	21
	割合(%)	100.0	54.1	46.0	28.9	10.0	24.4	6.5	26.2	1.8	1.8
Q 3 5 居住地域	東部地区	166 100.0	89 53.6	71 42.8	49 29.5	14 8.4	40 24.1	13 7.8	49 29.5	2 1.2	4 2.4
	菊かおる園地区	128 100.0	80 62.5	67 52.3	30 23.4	14 10.9	28 21.9	6 4.7	30 23.4	4 3.1	1 0.8
	中央地区	147 100.0	67 45.6	63 42.9	34 23.1	12 8.2	30 20.4	11 7.5	41 27.9	4 2.7	6 4.1
	いけよんの郷地区	108 100.0	59 54.6	53 49.1	34 31.5	18 16.7	29 26.9	11 10.2	29 26.9	2 1.9	1 0.9
	ふくろうの杜地区	151 100.0	84 55.6	77 51.0	48 31.8	12 7.9	41 27.2	5 3.3	35 23.2	2 1.3	1 0.7
	医師会地区	121 100.0	75 62.0	63 52.1	41 33.9	11 9.1	40 33.1	9 7.4	20 16.5	2 1.7	2 1.7
	西部地区	148 100.0	85 57.4	70 47.3	45 30.4	19 12.8	35 23.6	12 8.1	39 26.4	1 0.7	1 0.7
	アトリエ村地区	151 100.0	75 49.7	57 37.7	50 33.1	14 9.3	34 22.5	6 4.0	45 29.8	2 1.3	3 2.0

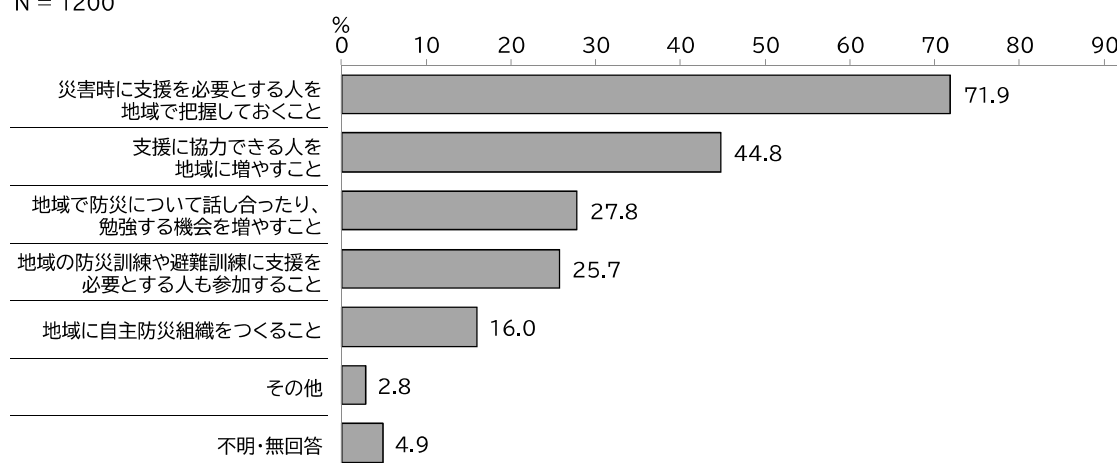
※網掛けは最大値

(8) 災害時に必要な備え

問 16 災害時に支援を必要とする人への支援策として、地域でどのような備えが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

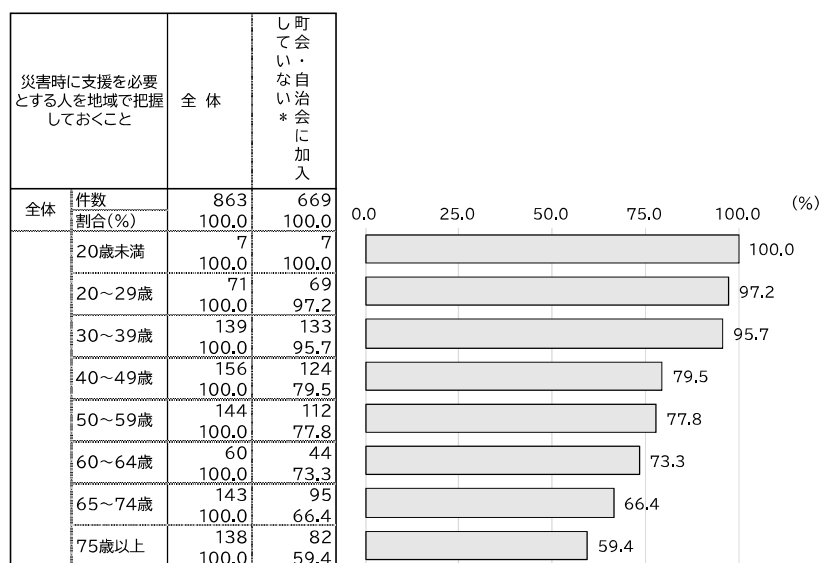
災害時に支援を必要とする人に対する地域の備えとしては、「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておくこと」(71.9%)が最も多く、次いで「支援に協力できる人を地域に増やすこと」(44.8%)、「地域で防災について話し合ったり、勉強する機会を増やすこと」(27.8%)と続いています。

N = 1200



[参考：災害時に必要な備え×町会・自治会への加入率]

「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておくこと」が必要だと回答した方のうち、町会・自治会に加入している方は約2割で、約8割の方は町会・自治会に加入していない状況です。さらに、年代別でみると、年代が下がるほど、町会・自治会に加入していない割合が高くなっています。



* 「町会・自治会に加入している」を選択していない人

6 福祉のまちづくり

福祉のまちづくりの状況を把握するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【外出の状況】

回答者の大半は「週1～2日」以上外出していますが、前回調査と比べると外出頻度が少ない方の割合が増えています。

外出時に不便に思うことに関しては、前回調査と比較して「特にない」が増えており、不便さが改善している傾向が見られます。

【まちのバリアフリー】

まちのバリアフリーの満足度に関しては、《不満》とを感じる方が多い状況ですが、前回調査と比較して《満足》が増えており、状況の改善が見られます。

外出先で困っているのを見かけた経験については、5割の方が「ある」と答えています。そして、「ある」と答えた方の6割の方が「手助けをした」と回答しています。

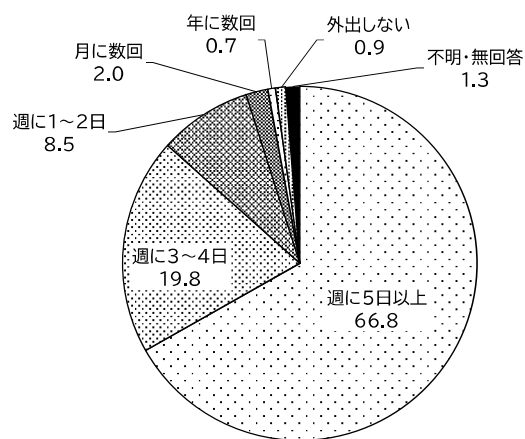
■調査結果から見受けられる課題について

- ・交通環境など、外出時に不便に思う事柄の改善やまちのバリアフリーの推進

(1) 外出頻度

問 17 あなたは、日常どのくらい外出していますか。（○は1つのみ）

日常の外出頻度について、66.8%の方が「週に5日以上」と回答しており、「週に1～2日」（8.5%）、「週に3～4日」（19.8%）を合わせると、95.1%の方が週に1日以上外出しています。



N = 1200

%

[年代別]

年代別でみると、外出頻度の高い「週に5日以上」は、「40～49歳」（83.3%）、「50～59歳」（81.7%）で8割を超えています。一方、「月に数回」などの外出頻度の少ない方の割合は、60歳以上の年代で多くなる傾向にあります。

		全 体	Q17 外出頻度						
			週に5日以上	週に3～4日	週に1～2日	月に数回	年に数回	外出しない	不明・無回答
全体	件数	1200	801	238	102	24	8	11	16
	割合(%)	100.0	66.8	19.8	8.5	2.0	0.7	0.9	1.3
Q33年代	20歳未満	10	8	2	-	-	-	-	-
		100.0	80.0	20.0	-	-	-	-	-
	20～29歳	110	86	19	5	-	-	-	-
		100.0	78.2	17.3	4.5	-	-	-	-
	30～39歳	177	134	31	9	1	-	1	1
		100.0	75.7	17.5	5.1	0.6	-	0.6	0.6
	40～49歳	215	179	23	9	-	2	2	-
		100.0	83.3	10.7	4.2	-	0.9	0.9	-
	50～59歳	202	165	26	7	3	-	1	-
		100.0	81.7	12.9	3.5	1.5	-	0.5	-
年代	60～64歳	80	51	15	10	3	-	1	-
		100.0	63.8	18.8	12.5	3.8	-	1.3	-
	65～74歳	195	104	61	19	4	1	1	5
		100.0	53.3	31.3	9.7	2.1	0.5	0.5	2.6
年代	75歳以上	199	67	60	41	13	5	4	9
		100.0	33.7	30.2	20.6	6.5	2.5	2.0	4.5

※網掛けは最大値

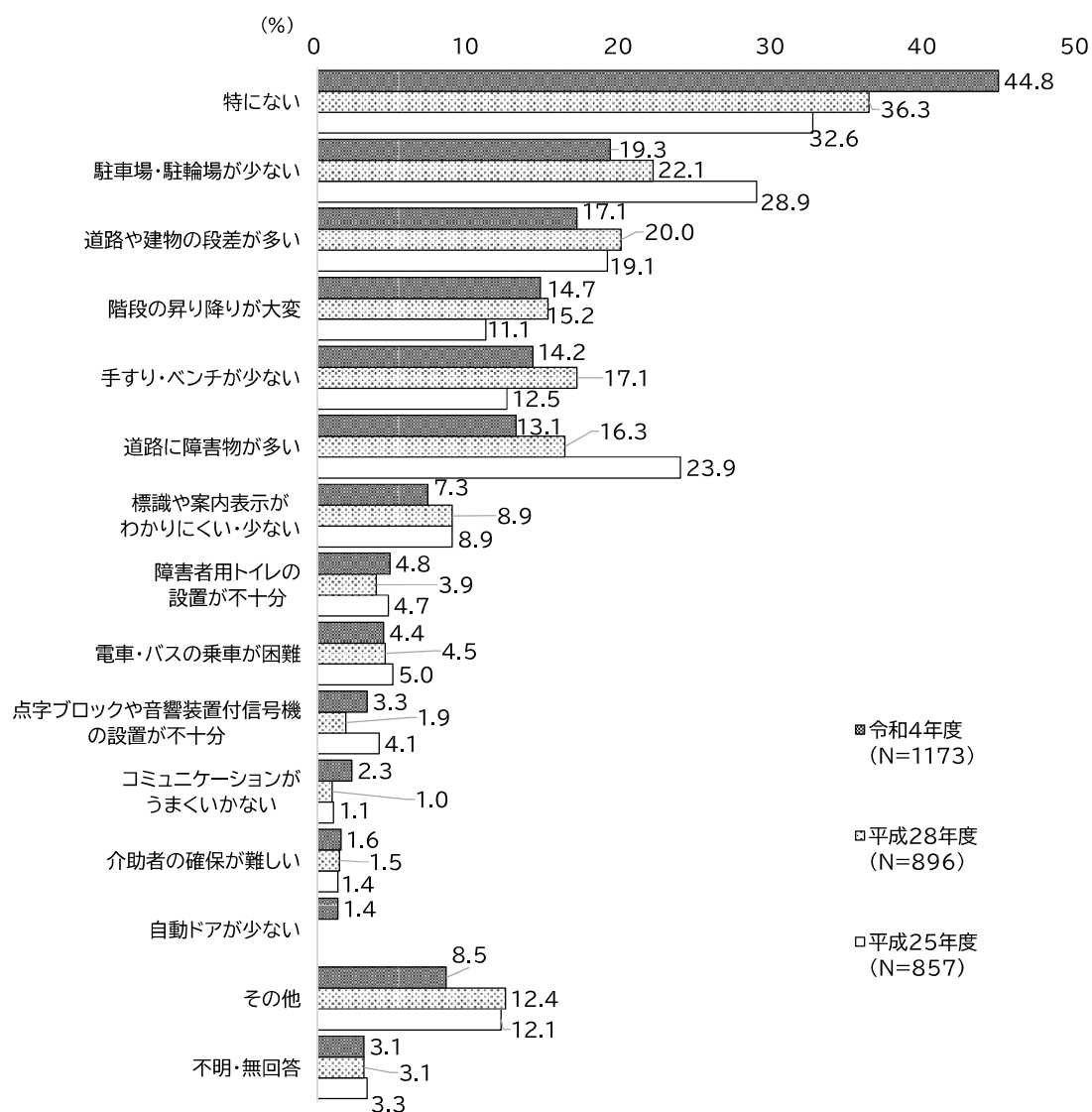
(2) 外出時に不便に思うこと

問 17-1 外出の際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことはありますか。
(○はいくつでも)

[外出時に不便に思うこと]

外出の際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことは、「特にない」(44.8%)が最も多く、次いで「駐車場・駐輪場が少ない」(19.3%)、「道路や建物の段差が多い」(17.1%)と続いています。

前回調査に比べて、「特にない」が増えています。困ったり不便に思ったりした内容としては、「駐車場・駐輪場が少ない」、「道路や建物の段差が多い」など、多くの項目で回答が減少しています。



[年代別]

年代別でみると、年代で最も多い内容が異なっています。具体的には、60歳未満の世代では、「駐車場・駐輪場が少ない」が最も多くなっています。一方、「60～64歳」と「65～74歳」では「道路や建物の段差が多い」、「75歳以上」では「階段の昇り降りが大変」がそれぞれ最も多くなっています。

		全 体	Q17.1 外出時に不便に思うこと														
			特にない	い道路や建物の段差が多い	道路に障害物が多い	標識や案内表示がわかりにくい・少ない	階段の昇り降りが大変	い手すり・ベンチが少ない	自動ドアが少ない	い駐車場・駐輪場が少ない	障害者用トイレの設置が不十分	点字ブロックや音響装置付信号機の設置が不十分	電車・バスの乗車が困難	介助者の確保が難しい	うまくいかないコミュニケーションが	その他	不明・無回答
全体	件数	1173	526	201	154	86	173	166	17	226	56	39	52	19	27	100	36
	割合(%)	100.0	44.8	17.1	13.1	7.3	14.7	14.2	1.4	19.3	4.8	3.3	4.4	1.6	2.3	8.5	3.1
Q 3 3 年 代	20歳未満	10	5	-	2	-	2	1	-	3	1	-	1	-	-	-	-
		100.0	50.0	-	20.0	-	20.0	10.0	-	30.0	10.0	-	10.0	-	-	-	-
	20～29歳	110	63	7	7	8	10	2	-	17	6	4	2	-	6	7	4
		100.0	57.3	6.4	6.4	7.3	9.1	1.8	-	15.5	5.5	3.6	1.8	-	5.5	6.4	3.6
	30～39歳	175	70	30	21	10	21	18	6	36	7	7	6	1	2	44	5
		100.0	40.0	17.1	12.0	5.7	12.0	10.3	3.4	20.6	4.0	4.0	3.4	0.6	1.1	25.1	2.9
	40～49歳	213	97	34	30	17	20	26	3	58	10	6	9	5	6	18	5
		100.0	45.5	16.0	14.1	8.0	9.4	12.2	1.4	27.2	4.7	2.8	4.2	2.3	2.8	8.5	2.3
	50～59歳	201	89	31	34	16	15	25	2	46	5	9	6	1	5	20	6
	100.0	44.3	15.4	16.9	8.0	7.5	12.4	1.0	22.9	2.5	4.5	3.0	0.5	2.5	10.0	3.0	
年 代	60～64歳	79	47	15	10	3	8	11	2	7	6	4	4	1	1	-	1
		100.0	59.5	19.0	12.7	3.8	10.1	13.9	2.5	8.9	7.6	5.1	5.1	1.3	1.3	-	1.3
	65～74歳	189	73	46	29	24	36	37	2	37	9	5	7	2	4	5	4
	100.0	38.6	24.3	15.3	12.7	19.0	19.6	1.1	19.6	4.8	2.6	3.7	1.1	2.1	2.6	2.1	
年 代	75歳以上	186	79	35	21	7	58	45	2	21	12	4	17	9	3	4	10
		100.0	42.5	18.8	11.3	3.8	31.2	24.2	1.1	11.3	6.5	2.2	9.1	4.8	1.6	2.2	5.4

※網掛けは最大値

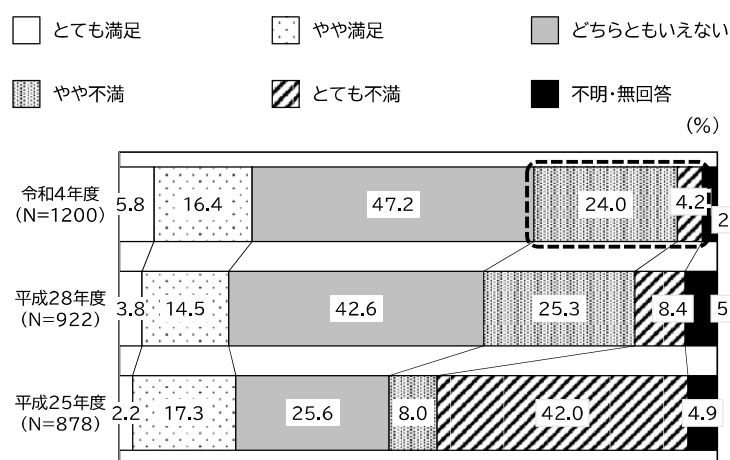
(3) まちのバリアフリーの満足度

問 18 あなたが日常生活を送る範囲で、まちのバリアフリー*について満足していますか。(〇は1つのみ)

*多様な人が社会生活をしていく上で、障壁(バリア)となるものを取り除くという意味

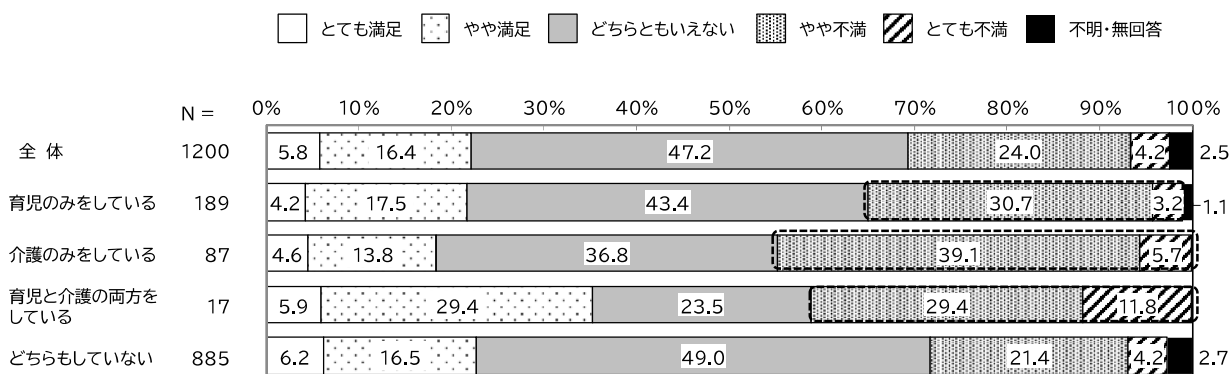
まちのバリアフリーの満足度について、「どちらともいえない」(47.2%)が最も多くなっています。《満足》(22.2%)より《不満》(28.2%)が上回っています。

前回調査と比べると、《満足》が3.9ポイント増えています。



[育児や介護の状況別]

育児や介護の状況(問1)でみると、「やや不満」と「とても不満」をあわせた《不満》と感じる方の割合は、全体(28.2%)に比べ、「育児のみをしている」(33.9%)、「介護のみをしている」(44.8%)、「育児と介護の両方をしている」(41.2%)が高くなっています。

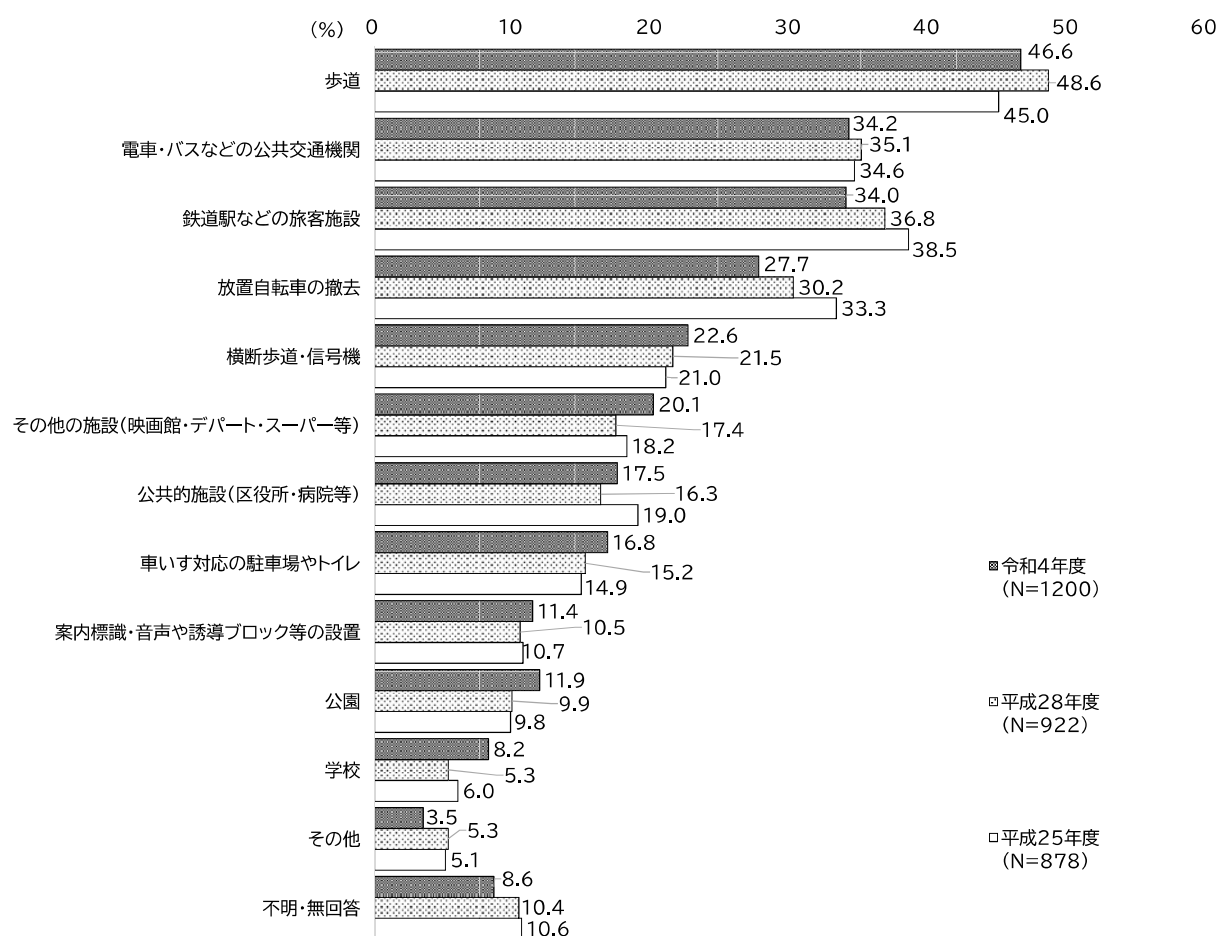


(4) バリアフリー化を進めてほしい施設

問 19 公共施設、生活関連施設や鉄道等のバリアフリー化の整備が進んでいますが、これからバリアフリー化を進めてほしい施設等がありますか。(〇はいくつでも)

これからバリアフリー化を進めてほしい施設は、「歩道」(46.6%)が最も多く、次いで「電車・バスなどの公共交通機関」(34.2%)、「鉄道駅などの旅客施設」(34.0%)と続いています。

前回調査と比較すると、「鉄道駅などの旅客施設」や「放置自転車の撤去」は減少傾向にあります。

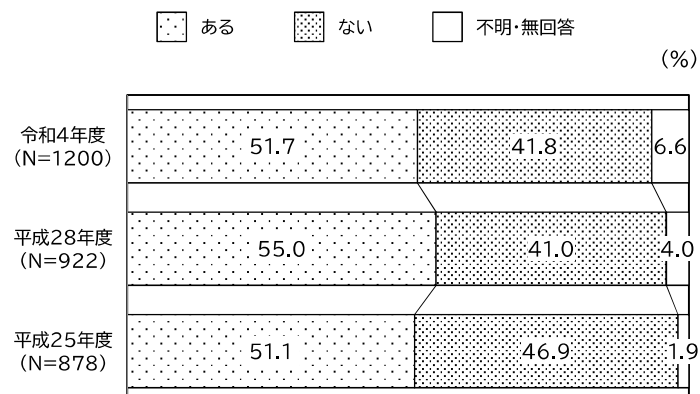


(5) 外出先で困っているのを見かけた経験

問 20 外出先で高齢者や障害者、妊婦、育児中、外国籍の方などが困っているのを見かけたことがありますか。(○は1つのみ)

外出先で障害者の方などが困っているのを見かけたことを尋ねたところ、「ある」が 51.7% となっています。

前回調査との比較では、大きな差は見られませんでした。

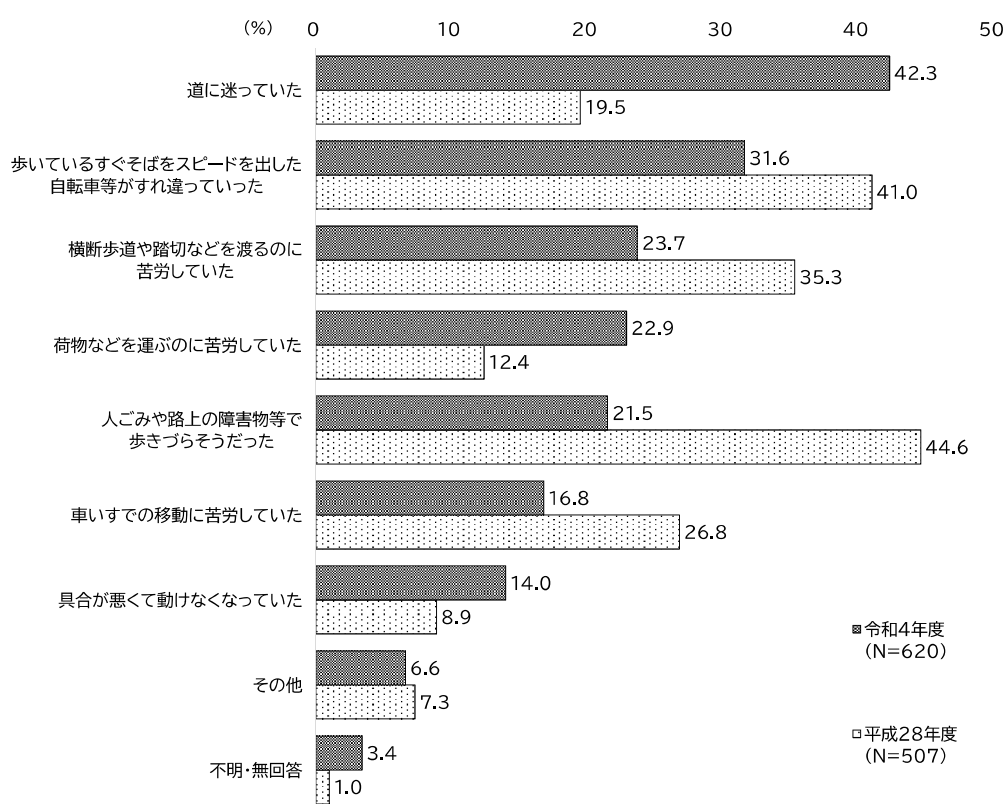


(6) 困っていたこと

問 20-1 困っていたのは、どのようなことでしたか。(〇はいくつでも)

外出先で困っている人を見かけたことがある方に、その困っていたことを尋ねたところ、「道に迷っていた」(42.3%)が最も多く、次いで「歩いているすぐそばをスピードを出した自転車等がすれ違っていった」(31.6%)、「横断歩道や踏切などを渡るのに苦労していた」(23.7%)と続いています。

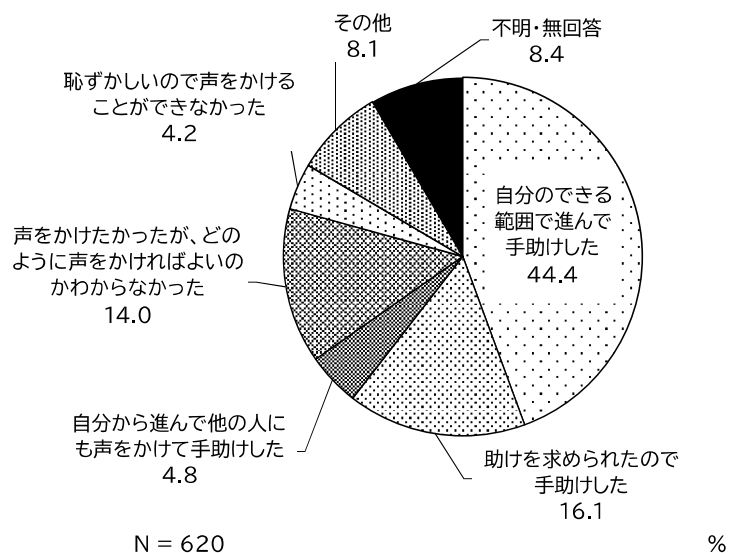
前回調査と比較すると、「横断歩道や踏切などを渡るのに苦労していた」、「人ごみや路上の障害物等で歩きづらそうだった」、「車いすでの移動に苦労していた」は、10ポイント以上減少しています。



(7) その時にしたこと

問 20-2 その時あなたは困っていた人に対してどうしましたか。(○は1つのみ)

外出先で困っている人を見かけた時にどうしたかと尋ねたところ、「自分のできる範囲で進んで手助けした」(44.4%)が最も多く、次いで「助けを求められたので手助けした」(16.1%)と続いています。



(8) 心のバリアフリー普及に必要な仕組み

問 21 障害者や高齢者への理解など、「心のバリアフリー」*を普及させるにはどのような仕組みが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

*心の障壁、つまり人々の意識にある「障害」や「障害者・高齢者・外国人など」に対する差別や偏見、理解の不足、誤解などに起因する障壁をなくすこと

心のバリアフリーを普及させる仕組みとして特に必要だと思うものは、「学校教育において子どもたちが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実させる」(59.3%)が最も多く、次いで「生涯学習において誰もが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実させる」(44.3%)、「健常者と障害者等のコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める」(34.5%)と続いています。

前回調査との比較では、「在住外国人とのコミュニケーションを増やし、相互理解を進める」が7.6ポイント増えています。

